



おちほ

第59号 平成19年11月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

07. セタフェスティバル —イケメン三銃士—



★『笑顔のせま』★



『おちほ』のは、サ〜ラサラ、そんな歌に乗せて届けるお願い事。皆さんは今年の七夕、それぞれに一体何を願ったのでしょうか？

今年の落穂寮の七夕も例年通り、新人職員によるステージ披露。仕事にもまだ今ひとつ慣れず、バタバタしている毎日の中、夜遅くまで準備をしたり、練習をしたり…。新人にとってこの『セタフェスティバル』という行事はちょっとした試練だったりするので。

今年入職の職員は男性三人。そう、女性がないのです！なんて華のないステージと、そんな風に思われる方もいるかもしれません。けれど、実際のステージはそんなことではなくて、色とりどりのパラルソなどの小道具や衣装、歌、踊り：三人の可愛く♡、そしてちよっぴり男らしい♡アイデアが散りばめられたステージとなっていました。

ステージ上の三人を見様見真似で踊る寮生さん、ニコニコと一緒に歌を歌う寮生さん：体育館を包み込む楽しさで溢れる空気は、きつと空高くまで皆のお願い事を届けてくれたのではないかな、そんな風に思います。

新人職員にとっては、試練。だと言った七夕フェスティバル。でも、そのしんどさは本番で目にする『寮生さんの笑顔』で帳消しになる！寮生さんの笑顔のパワーはとっても、とっても大きくて、偉大です。

所 感



理事長 高井正義

去る十月四日、事務所前の植木を剪定していたところ、

日課の歩行に出かける寮生の人たちが近くを通りかかってきた。当日は大きなヤマモモの木に登っていたので寮生の人たちの様子を見ることもなく剪定に集中していたところ、突然「オー、オー」という大きな声が聞こえてきた。何か問題が起こったのかと思ひ剪定の手を休めて声の主の方を眺めてみると、木の上の私の方に身体と視線を向けて「オー、オー」と叫んでいる姿に気がついた。何か私に自分の存在をアピールしているのではないだろうか？と瞬間に感じたので、思わずその寮生に手を振ったところ、私の方を見て再び「オー、オー」と叫び、間もなく身体も視線も他の寮生の進んでいく方向に歩いていく姿に出くわした。改めてやはり自分の存在を私にアピールしてくれていたように思えその理由を考えてみた。

その寮生には、以前歩行から帰ってきた時に事務所前の道路で座りこんでダダをこねて動かず、指導員の先生が対応に困っておられるように見えたので、側に行き厳しい表情で抱き起こすと立ち上がってくれた。そのあと、「みんなと一緒に歩かなあかんよ」と笑顔でやさしく頭をなであげると、歩き出してくれたことを思ひだした。そのことが原因で私に親近感を覚えてくれた言動かどうかは定かではないが、私なりにそのように解釈し、とても嬉しい気持ち

ちになった。

滋賀の福祉の偉大な先人で糸賀一雄・田村一二両先生と共に近江学園の創設に参画された池田太郎先生の著書に「ふれる・しみいる・わびる教育」という書物があります。そのなかの一節に、「西洋ではお互いが親密の姿を握手で示す」「手をつなぐという言葉があるが敵同志でも仲直りするときに初めて手をつなぐ」「家でも子供が喧嘩すると『握手』といって必ず手をつながせる」といっぺんに笑顔が生まれ、曇った気が晴れたようになります。これは喧嘩してはいけないというよりよほど効果的に思われます。これは学園の生徒の場合も同じです。また古来日本では「手当」という言葉があります。何かの病気に対する治療を意味します。いまでも手のひら療法とか指圧療法とかいって手をふれることよって治療する方法があります。教師の手が常に生徒の頭にやさしくタッチする、ふれるということが、生徒の患部を治療することになるのです。そこから生徒の清らかなほほえみが見られてまいります。逆に教師がいつも生徒の真のふれ方、タッチの仕方をしてやることができるようになりますと、清らかなほほえみが教師の顔にも現れてきます。…とあります。

道路に座りこんでいるあの時のわずかなふれあい、今日のような思いに繋がったのではないかと改めてほほえむ一刻でした。

しょかん



寮長 山下陽一

千の風

「千の風になつて」がたいへんなブームになつているようです。去年(2006年)年末恒例のNHK紅白歌合戦で、テナー歌手の秋川雅史さんがオペラの Aria を唄うように朗朗と聴かせたことが発端のようですが、大晦日の国民的歌謡ショーを見ている幅広い層のうち、熟年層の人達の深い共感を得たものだと思います。まさに「千の風現象」といえるもので、以降いろいろなところで形を変えながら、この素朴な歌詞とメロディーを耳にします。唄われ始めたきっかけは、作家・新井満さんが知人の奥さんの供養にと、偶然知った作者不詳の英語の詩を訳し曲をつけて、自分で歌ったCDを贈った、というのが始まりとご本人は述べています。

風のゆくえ

原詩の冒頭は次のように記されています。

私の墓に立って、
泣かないでください。
そこに私はいません。
私は眠っています。
私は千の風になつて吹いています。

原詩(英語)にイマジネーションを込めて訳した新井さんは、作者不詳の詩の背景には自然と共に生きるインディアンのアミニズムがあるのではないかと推定

し、青年と娘の悲しい短い物語を作っています。

「風」がブレイクしていることについて、本年(2007年)6月20日朝日新聞の文化欄に日蓮宗の住職が、「仏教の教えが理解されていないという何か? 葬儀など儀式を我々が十分に伝えてきたのか、という反省はある」と述べています。

確かに、住職の観点に立つならば、お寺は死者の枕元に坐し経を唱え、引導を渡した後に野辺送りをする。お彼岸には墓参りし仏花(最近ではけばけばしい造花などありますが)を供えて供養します。それは故人の霊がその場にあるものとしての接遇です。

ところが、詩のようにそこに霊がいなのなら、お寺さんは一体なにをしてくれているのだろうか、ということにもなり、仏事儀式業者には大変な営業妨害のメッセージともなりかねません。

「風やダイヤモンドの雪」になるということ

さて、私たちが今ここに在ることに起点を置きましょう。当然、親があります。その前は…とずっと生命をたどっていくと、それこそ何十億年も遡ることになるわけですが、一体その出発は何だったのか。こんな観点から「千の風現象」を考えてみようと思います。

私たちが今あるその最初は何か? この神秘性について古来いろんな人たちの考えを積み重ねてきましたが、いまだに納得させるものがありません。

小田原で私塾を開き、子どもたちに英語を教えていた、和田重正はこのあたりを明快に説明しています。それ(もう一つの人間観)によると生命誕生のドラマは次のようなものです。

大宇宙に水素原子が存在した。この原子は相互にゼロでない関係が生じることとなり、極微ではあるが膨大な時間をかけて徐々に接近していった。そして無限大ほどの時間が経過し、宇宙全体を組み変えるような超融合が起こり、いろんな形の分子となり、今の地球の原形となるものが生じた。このドロドロ状態の地球は偶然と奇跡により、生命の元となるようなものが水中に多く同時に生まれた。それから数億年、「いのち」はある方向に向かって進み始めた。そして地球は「いのち」のパラダイスとなり今に至っている、という考え方です。

大宇宙の水素原子と今の私たち(生物も無生物も)が無限の時間で隔てられているものの「連続している」という考え方です。

最近、私はこれには間違っているところがない、と確信を強くしています。

そして「死」を考えるとき、そのなきがらを焼却することで本当になにもかも無くなつて消滅してしまふのかという疑問がわいてきます。

先に挙げた、先に挙げた、日蓮宗の住職はどのあたりの視点から話しているのか判りませんが、仏教にいう「空」という概念と和田さんのいう「いのち」のあり方と合致しているのではないか。「空」というのは、けつして消滅して空っぽの状態のことではなく「いのち」が過不足なく満ちみちているののように思つてもいいのではないか。

気流である風の現象は、現在では物理的に説明のつくのですが、これはあくまでも人間の脳の方法による理解の仕事であつて、それが機能し始めたのはここ数万年のことであり、「いのち」のその発生から今まで、試行錯誤と選択の無限大な時間の経過と比較すると大脳の仕

業など、正しい判断をなしえない、と和田さんは喝破しています。

解剖学者の養老先生は、人の思考を「脳の壁」として説明されていますが、これは大脳にたよる理解の仕方の限界を述べおられるのではないかと思っています。

すべてにいる私

「私のお墓の前で泣かないでください。そこに私はいません。眠ってなんかいません。千の風になつてこの大空を吹き渡っています。ときには朝のしじまの中に、ときには愛しいものなかに。私はここにいません。死んでなんかいません。」

この詩は、世の中の現象全てに「私」を感じることができると、という意味にもなるでしょうか。

個人にとつて過去の一つひとつの記憶は、干からびた化石を標本のように脳細胞のどこかの整理ダンスに保存しているようなものではなく、種々の酒瓶の内の発酵作用のようなもので、記憶は現在も意識下で分解しているのではないかと思えます。いつも意識しないのに、あるとき突然思い出したりしますが、これは条件によつて発酵が急速に進むようなものではないか。甘美な香りを発する瓶か、腐敗臭を発する瓶かは別として。

和田さんの思想に頼ると、人の生は大宇宙の「いのち」の流れから眺めるなら、無限の時間の長さにある「いのち」の長さと比較すると、「わたくしの時間」は、極めて幽かなきらめきの世界と言うことができます。この観点に立つと、「千の風」こそホトケの教えに一致すると、と言うことができるのではないか、その共感が深く世代に浸透して行つていっているのではないか、と思えるのです。



プログラム No.5 招待者レース 「鬼退治だよ。 全員集合!!!」

力を合わせて
やっつけたぞ~!!



プログラム No.4 綱引き



オーエス!
オーエス!!
2勝1敗で
赤勝利

プログラム No.1 徒競走

レク大会目玉種
目! 寮生さんも
自分の力でゴール
までたどり着
きました。
走る人、歩く人、
途中で立ち止ま
る人。
それも立派な個
性です。



去る、十月七日レクリエー
ション大会が行われました。
天気にも恵まれ、楽しい一
日になりました。その楽し
さを感じてください。

プログラム No.3 玉入れ



サザエさん現わる!



♪♪♪♪♪
皆が笑ってる~
皆が投げてる~
る~るるっ~
赤組の勝利♪♪



プログラム No.2 紅白対抗!! 間違い探し



謎の覆面登場!!
他にも間違った人達が
大集合。
みんなはどれだけ分かったかな?!

プログラム No.6 Let's タンツク



おまけ 職員有志ダンス 「ザ・かんばらんば」 by こだまさし



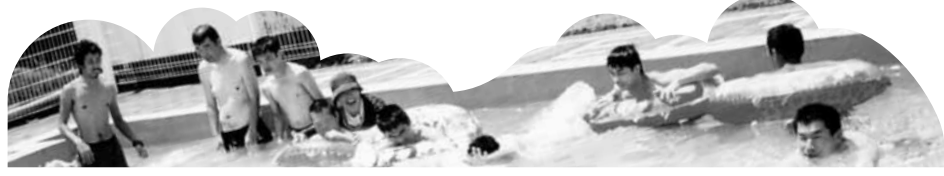
締めはやっぱり...
おちほ恒例! みんな仲良く
バルーン&ダンス♪

トピックス

暑い暑い飯盒炊さん



本当に暑い日、八月五日に男子棟の飯盒炊さんがありました。もう暑くて暑くて：去年と同じく日陰のない川辺ではとてもでき



るような天気ではなく、日射病などの心配がある為、今年も落穂寮内で行いました。体育館の横に大きなレジャーシートで日陰を作り、そこでバレーキュー。男子職員が汗びっしょりになつて、みんなの為に頑張つて焼いてくれました。焼肉、焼きそば、野菜炒め、ウインナー、おにぎりを寮生さん達は夢中になつて食べておられました。寮内とはいえ、外での食事は、食堂で食べるのとはまた違つてワクワクするものです。食べておられる表情はやっぱりいつもと違つて楽しそうでした。

職員がバレーキューの準備や片付けを

している間、ほとんどの寮生さん達はプールで涼みました。バシヤバシヤ泳いでいる人、浮輪を使ってプカプカくつろいでいる人、水をすくつて遊んでいる人など職員も一緒になってはしゃぎました。暑い日のプールはなんて気持ち良いのでしょうか♡残念ながらプールに入れない寮生さんの為に、足だけでも水につけて涼んでもらおうと、やってみたのですが、水が苦手なだけに険しい表情をされていました。

さて、待つてました!!おやつは、☆マンゴープリン☆冷たくて美味しくて、皆、幸せ気分でした。♡

「飯盒炊さん、楽しかったですか?」と聞く職員に、寮生さんは笑顔で「はぁーい」と手を挙げて答えて下さいました。暑かつたけれど、楽しくて、美味しく、充実した一日を過ごしました。(次の日から、日焼けに苦しむ日々は続きましたが...)



かわりちようだい♡



楽しいよ!!



暑いー!!

雨のバレーキュー

女子棟飯盒炊さんが七月十七日にありました。梅雨の時期ということもあり、毎年心配されるのはそう、お天気。残念ながら今年も雨。高間みずべ公園は断念、おちほの体育館で行いました。

焼き肉の他にも今年は焼きそば、きのこのホイル焼き、しいたけのマヨネーズ味噌焼きも用意しました。毎度のことながら、みなさんお腹が一杯になるまでたくさん食べておられました。来年は晴れますように...

▼いただきます♡



▲黙々と食べてます!

織り物交流



七月三十一日から三日間、竹の中班の六名であざみ寮のみなさんと織り物を通して交流を行いました。竹の中班では、午後から織り物を制作しています。その元となっているのは、あざみ寮の織り物料のみなさんが制作しておられる『結び織り』という織り方です。三日間はあつという間で、「また来てね」「これからも頑張ろうね」と見送られる車中、大粒の涙を流し、別れを惜しむ方もおられました。あざみ寮のみなさん、ありがとうございました。



トピックス

お地藏様に 想いをこめて

落穂寮では、毎年夏季帰省の次の日に地藏盆を行っています。お地藏様は事務所前におられ、事前に綺麗にお化粧をします。次に前掛けをします。それには一人一人の寮生さんの一年の健康を願いながら、寮長が心をこめて書かれた五十名の名前が入っているのです。また、お供え物は、保護者から、一年の無事の願いをこめたものなのです。

当日は天気も良く、全員で手を合わせ、それぞれの願いを、お地藏様にしました。

毎年、沢山の人の想いが込められた地藏盆のお陰で、大きな事故も病気も起こっていません。

お地藏様、今年も寮の安全と寮生さんの健康をお願い致します。



真剣をお願いする寮生さんと職員

地藏盆が終わった後、夕方には納涼祭を行っています。食堂を屋台に代え、夏祭りの雰囲気を楽しんでらっしゃいます。

めんそ〜れ、おちほ

今年のメニューは、そばめし、おにぎり、フランクフルト、ジュース。デザートにはサターアングギー（沖縄の名物です）のアイス添えと豪華でした。しかしそばめし、サターアングギーは職員も普段作った事がなく、栄養士、お炊事の方にアドバイスを頂きました。その甲



そばめしです。



おなかいっぱ〜い。

斐もあり、上手に(?)でき、寮生さんはおいしそうに食べていました。ここ何年かやぐらを作らず、盆踊りができない年が続きました。



「やぐら、盆踊りも今年は！」と、担当職員。前日からがんばってやぐらを作りました。が、夕食の最中から激しい雨が…。夕立ちと思いきや全くやまず。(泣)外には出られず、多少狭くはありましたが、食堂の中で

♪やんべえ〜 さてはことばの…♪

盆踊りを行いました。最後の花火の時には何とか雨もあがり、打ち上げ花火を楽しみました。雨が降ったのを除けば、文句がなかったのですが、天気には勝てませんでした。来年はてるてる坊主も作っておこうと思います！



ハイ！いらっしやいませー



“たーまー”



カンガルー班での歩行



あすなる班で造形活動



梅班で空缶整理作業



竹(外)班で環境整備

今年も七月三日(火)、十月十二日(金)の二回に渡って、石部中学校

石部 中 交 流 会

校の生徒さんが交流にいられました。第一回目は午前中だけで生徒さんも緊張しておられ、職員、寮生ともぎこちない雰囲気の中で交流で

した。関わろうにも関わり方がわからないため、どうしても見学になりがちだったようです。しかし、第二回目は積極的に関わりを持たれる生徒さんもおられ、本人も「もうこわくない」と、本音を語られていました。この言葉のように、皆さん、

県 教 員 新 任 研 修

この十月二日に、滋賀県教職員初任者研修生の方が来られました。県内の養護学校で教育に携わっておられる皆さんなので、さすがに元気で明るく……といった感じでした。終えられた感想には、「普段接している生徒とは違い、上手く表現できない人とのコミュニケーションの難しさを知った。」



「年上の利用者者と接するの戸惑った

が、職員の利用者への接し方から多くの事を学びました。」学校では日中の限られた時間をどう次につなげるかと



いうところを見ながら生活するが、ここでは毎日の生活をとても充実させておられるところに、あらためて一日一日を大切にすることを考えるきっかけになりました。」など、研修の成果を感じられるものが多く寄せられていました。こちらこそ、お世話になりました。ありがとうございます。



泉

▼平成二十年四月からの新体系移行に向けて、着々と作業が進められています。四十三名の方の認定が終了しましたが、必ずしも本人の状態に合致した認定内容とは言えず、もどかしさの残るところです。御本人にとっては判断の難しいところですが、支援職員の増加となれば、今まで以上に厚い支援ができるので、利用者にも喜んで頂けるのではないかと思います。ただし、スタッフの増加が意識の低下を伴わないように、より一層、気を配らなければならないと、日ごとに不安が増してくる、今日この頃です。

木 言

目先のことにとらわれた人々によって、まわりの空気が変化する。何千年にわたって生きつづけてきたが、いつ咲けばいいのかわからない。自分では、どうすることもできないなら、誰に伝えることができるのか。誰が気付いてくれるのか。根元を広げて待つとしよう。はるか遠くに目を向けるために。